

あいらおのまち！川口！！



総合案内版

川口市内観光ルートマップ



川口市内観光ルートマップ全コースガイド

川口と聞いてどんなイメージを思い浮かべますか？ 鍾物、植木、タワーマンション、東京のすぐ隣、荒川……。どれも正解。そして、このほかにも正解は無限にあるのです。歩いて、触れて、知らなかった川口を見つけてほしい。そんな願いをこめて、市内の見どころを集めた観光ルートを11コース作成しました。縄文時代の貝塚からおもろいスポットまで。歴史、花めぐり、個性的な商店街、遊べる公園などが、エリアごとの特色をコース上にギュッと凝縮しています。休日のごとき、ルートマップ片手に、川口の街歩きを楽しんでみませんか。

1 川口駅東口コース
全長 4.2km 所要 52分

市内の商業中心地・川口駅東口周辺を散策。平成3年に完成した駅前ペデストリアンデッキは街の景観を近代化した。しかし、駅からほど近い場所には、古くからの寺社が残り、徳川将軍が通った日光御成道沿いには古い商家の店構も。最新設備と歴史遺産が共存しています。

中ボラ

2 川口駅西口コース
全長 6.3km 所要 80分

荒川を歩き、河川敷からの眺望を堪能します。その昔、江戸との舟運や鐘物づくりに必要砂など、荒川は川口発展の土台となりました。コース上は新しい街が2つあります。駅西口にあった園の研究所は文化施設に、古くからのビール工場は、商業施設・美術施設を持つ複合空間となりました。

荒川運動公園

3 元郷・領家コース
全長 5.3km 所要 65分

埼玉高速鉄道の開業、超高層マンションの竣工などにより、景色が格段変わりました。元郷・領家地区とはいへば荒川が流れる一帯は工場が多く、ものづくりの街・川口の原風景をとどめています。足を延ばせばレンガ造りの洋館と和館の「旧日中家住宅」（国登録文化財）が見られます。

エルザタワーと鐘物工場

4 西川口・青木町平和公園コース
全長 6.7km 所要 82分

便利な駅ビルを併設し、イメージアップが進む西川口。東口の駅前通りでは地域ぐるみで緑化活動が行われており、街路樹や花壇が通りを彩ります。市民スポーツの拠点が青木町平和公園。充実した設備もさることながら国立競技場の聖火台レプリカなど、散策するだけでも楽しめます。

青木町平和公園

5 芝コース
全長 5.5km 所要 69分

マンモス団地や戸建てが並ぶ芝地区は、昭和10年代まで水田地帯でした。その後都市化が進みましたが、端には庚申講の石碑やお地蔵さんといった昔の信仰を伝える建造物が残ります。見どころは徳川家の庇護を受けた吉利・長徳寺。広い境内は凛とした空気に包まれています。

長徳寺

6 グリーンセンターコース
全長 6.0km 所要 76分

グリーンセンターは、東武ドーム3箇分の広さにさまざまな草花が植えられ、遊具も充実。この一帯はもともと花の生産が盛んで、今も周辺には花農家や園芸店がみられます。近くには関東郡代伊奈氏の菩提寺・源長寺などがあり、江戸時代の旧新井宿村の雰囲気を残しています。

グリーンセンター内大温室

7 差間・木曾呂コース
全長 6.1km 所要 77分

水田地帯の面影が残る住宅地には、江戸治水の名残が見受けられます。広大なため池になっていた見沼を干拓したのが見沼田んぼ。水を引き上げたのが見沼代用水。この門式運河の見沼通船堀。先人の知恵と技術にうなられます。木曾呂地区は知る人ぞ知る、ぼうふうと木の芽の産地です。

見沼通船堀

8 戸塚・綾瀬川コース
全長 6.5km 所要 80分

かつての水田や稲刈り、すっかり住宅地に変貌。新興住宅地の東川口にはスーパーや大型店舗が並び、新しい公園や学校、スポーツセンターなどができました。東を流れる伝川川の桜並木は地元の花見スポット。綾瀬川はカマヤザキなどに遭遇できるバードウォッチングの穴場です。

戸塚中央公園

9 赤山・安行コース
全長 7.1km 所要 86分

安行は400年近い歴史を持つ植木の産地。現在も植木産業の中心地であり続けます。関東郡代・伊奈氏の拠点であった赤山には今も堀や土塁があり、栄華がしのべます。自然の残る興隆院や「お灸の寺」金剛寺、眼病治療で信仰を集める慈林院宝蔵院など、歴史的名見どころ満載。

赤山城跡

10 安行・峯コース
全長 4.2km 所要 51分

見ごろを迎える花に一年中事欠かない安行。希少種のイチリンソウは、地域の人を守らねばならぬ自生地を広げていきます。コース上にもオープンガーデンが設けられています。広場のケヤキには伝統行事「安行原の蛇道り」の蛇が。自然と伝統が、安行では大切に守られています。

安行原の蛇道り

11 鳩ヶ谷コース
日光御成道ルート 全長 6.1km 所要 77分
芝川ルート 全長 5.3km 所要 66分

日光御成道の宿場町として栄えた鳩ヶ谷は、懐かしい雰囲気を感じるエリアです。見どころがいっぱいの鳩ヶ谷コースでは、江戸の風情が残る寺社が多い日光御成道ルートと、南北に流れる川辺を歩む芝川ルートで2つをピックアップ。

日光御成道ルートは、鳩ヶ谷の台を下りながら、昔の絵図にも描かれた地蔵院、鳩ヶ谷氷川神社に足を運びます。タイミングがあれば、からくり時計の大行列に出会えます。

芝川ルートでは、堤防上のサイクリングロードを進みます。水門のある上青木橋の小さな広場からは、川口オートレース沿いに流れる旧芝川の遊歩道・芝川緑道へ。水面に手が伸ばせるような川岸は、現在では貴重な場所といえます。

鳩ヶ谷氷川神社

芝川緑道

川口市プロフィール

埼玉県の南端に位置し、荒川を隔てて東京都に隣接する川口市。街の玄関でもあるJR川口駅は、ペデストリアンデッキが整備されて東口と西口につながり、華やかな街に大変貌しました。

東京に隣接する地の利もあって毎年人口増加は続き、また平成23年(2011年)10月に鳩ヶ谷市と合併したことで、埼玉県内では、第2位の都市となっています。川口市には、中央に芝川、東に綾瀬川、南に荒川が流れ、台地と低地からなる複雑な地形をつくっています。市域北側の台地では、古くから植木や花きなどの園芸栽培が行われ、市域の70%を占める、南西部の低地は鍾物や織物、釣竿、味噌などの醸造業が根付きました。それらは、ものづくりの街の基盤となり、街の発展を支えてきました。

その鍾物は、江戸時代に栄えた日光御成道周辺に端を発し、全国有数の工業都市として成長し、鍾物の街・川口を不動のものにしていきました。

一方、近年は急速にベッドタウン化が進み、かつて林立していた工場群は他地域へ移転。跡地には高層マンションやショッピングセンターなどが建ち、伝統産業と新しい文化が交差する街へと姿を変えています。

川口市には今、映像産業と呼ばれる新産業の芽が育っています。NHKラジオ放送所跡にできたSKIPシティがその拠点。SKIPシティ国際Dシネマ映画祭を開くなど、デジタルシネマを制作する企業やクリエイターなどの育成にも取り組んでいます。SKIPシティには、スペースシャトルで地球に戻った宇宙バロが植樹され、子どもも楽しめる科学館では、高性能な3つの天文ドームやプラネタリウムなどが、宇宙への関心を高めてくれます。

川口市周辺アクセス図

主要駅から川口駅までの所要時間

- 上野駅から約17分
- 池袋駅から約17分
- 大宮駅から約20分

主要駅から鳩ヶ谷駅までの所要時間

- 上野駅から約38分
- 池袋駅から約43分
- 大宮駅から約46分

川口市経済部産業振興課
〒332-8601 川口青木2-1-1
電話：048-259-9018 FAX:048-259-2622

2019.9

伝統産業の街 川口 地域を支えた歴史ある産業

鍾物

鍾物は川口を代表する産業のひとつで、歴史は古く、江戸時代に確立された地産産業です。鍾物工場は市の南部地域を中心に発展。数々の鍾物製品を作り出してきました。大消費地東京に隣接する好立地条件や、伝統技術、頼まれたらやり抜く職人気質、旺盛な研究心と負けじ魂などによって、かつては全国一のものづくりの街・川口を博しました。鍾物工場は最盛期に比べ少なくなりましたが、今も川口にはものづくりの伝統が息づいています。

川口の鍾物って？

埼玉県最大の産地、JR川口駅の駅名が誇る地産産業の鍾物製。市内の善光寺裏手で組み立てを行なった、日本初の蒸気機関車・善光号がモデルです。かつての川口市は、溶解炉「キュボラ」の煙突が林立した真正正路の鍾物の街。映画に取り上げられ、街のシンボルとして長くイメージされてきましたが、現在キュボラを見ることができない工場は数軒。代わって高層マンションが林立しています。

鍾物は、緻密な肌をした鈍く輝く独特な質感ですが、その感覚を覚えること、オブジェや街灯、マンホール、橋の欄干、歌でヒットしたタイ焼き用鉄板など身近なところでも存在を確認できます。鍾物とは、鉄を含有する1500度を越す高温で溶かし、砂や金属で作った型に流し、冷えて固まった製品のこと。真っ赤な鉄の塊「湯」は、複雑な形状の型でも吸い込まれるように自在に流れ込み、形を作り出していきます。その技術は、人類が火の利用を知った原始時代に遡り、土器作りの炎から溶け出した金属がくぼみに入って固まることをヒントに、生み出されたといえます。

鍾物の製造に不可欠なものが「鋳型」です。でき上がる製品と同じ模型を木や金属、合成樹脂で作り、枠に入れて周りを砂で固め、最後に模型を抜き、できた凹みに溶かした金属を流し込むのです。といて、1500度を越す溶けた金属はどのようにして鋳型を壊さずに形を作ることができるのでしょうか。それは金属の表面張力が働くからで、おまけに粘度が極めて低いため砂に浸み込むことなく、細かな形状でも隙間から滑り込むように入り込み、精密な形を作り出します。

現在、川口市内で生産される鍾物の多くは、産業機械用をはじめ、自動車や船舶用の基幹部品の部品として活躍するほか、農具材や日用品など身近な場所にも用いられ、利用されています。

良い製品は、職人の経験と技術が生む

青木町平和公園にも聖火台が展示してあります

植木

植木は、台地の風土に守られながら市内北東部の安行地域を中心に栄えてきました。その台地は標高20メートルの起伏に富んだ洪積台地。関東ドーム層の赤土を活用し、挿木や接ぎ木、室での貯蔵などの技術が生まれました。江戸時代になると、水運を利用してその技術は江戸の街に運ばれ、安行の名が広がりました。現在も、マツやマキなどのばっぴりを美しくする仕立て物や、移植しても根を枯らさない根巻きなど、長年の間に培われた伝統技術は安行流といわれ、国内外で高く評価されています。

なぜ川口の植木は有名に？

川口市の植木生産地は、安行地域を中心に、神保、戸塚、新郷などの市内北東部地域。これらは市内で、もっとも高い台地上にあり、表層下は火山灰の堆積層です。年月を経て侵食され、傾斜地や低地など起伏に富む地形をつくりだし、それぞれの地形に似合う草木が多様となりました。その台地は水はけが良く、挿木や接ぎ木の術が育ち、自当りの斜面は土を使わずに切花用の促成栽培技術も生まれました。また、立地で見ると川口市は日本のほぼ中央にあり、温暖な地域から寒冷地域まで広範囲に植生する植物の栽培も可能となり、大消費地東京に隣接する地理的条件も恵まれ、植木産業として発展、やがて全国各地へ浸透していきます。

川口の植木の始まりは江戸時代と推測され、赤土に障屋を構えた関東郡代・伊奈氏が開墾するも、植木や花の栽培を奨励したといわれます。また、大火で消失した江戸の復興に安行の植木を送り込むきっかけをつけた吉田権之丞や、サカキなどの枝物を江戸に売り出したという若槻太郎兵衛なども今日の植木産業の基礎をつくったともいわれています。

植木のせり会場

美しく手入れされた安行地域の植木畑

もみじ専門の農家もあります

いきづく技術

安行の植木は国内外で高く評価されており、10年前に開催されたオランダの国際園芸博覧会に、1982年から毎年出展し、安行の植木技術を駆使した日本庭園等は、連続してタイトルを受賞。これを機に、「ANGYO」ブランドは海外でも高く評価されています。

長年伝承されてきた安行の植木技術は、そのほとんどが安行で開発され、「植木の安行」のブランドで全国に流通しています。その一つ「根巻き」は、樹木を移植するときの技術。掘り取った根から土が落ちないように麻袋で根を包み、荒縄で結びます。かつては稲わらが使われ、土に埋めるとそのまま堆肥になったという優れものですが、縄の造形美しさも評判です。

「曲げもの」は、樹木を曲げて珍しい形を作る技法で、完成までは30年もの年月がかかるという、新しい技術が必要とされます。いけばに使う「枝物」は輸送中つぶほひの落下を防ぐ「折折」「しおり」という技術などもあり、いずれも川口の風土にあった形づくりに由来し、現代に受け継がれています。

川口では、江戸の頃より市内北東部を中心に植木や花き栽培が行われており、植木栽培は繁忙期がない上に、農作業は年中欠くことがないことから、安行地域の農地の植木占有率が、一時は9割に及ぶほどに広がりました。今もこの地を歩くとき、造園業者の看板が点在し、マツやツバキ、ヒバなどの美しく手入れされた植木や、観賞用の植木、花などにあふれ、春は新芽の柔らかな緑に始まり、秋の紅葉も一段と美しく輝きます。

御成道

御成道(日光御成道)は、江戸時代に将軍の日光社参のために整備された街道で、現在の川口市内では国道122号線と県道105号線のルートにあたります。川口と鳩ヶ谷は、日光御成道の宿場に選ばれ、人びとが行き来する街道の宿場町・商業の町として繁栄してきました。また2つの町は、江戸に向けての植木や釣竿、織物といった伝統産業の供給でも力を貸しあってきました。そして、鳩ヶ谷地域が川口市に加わったことで、川口と鳩ヶ谷がこれまで以上に一体となるような街づくりが進められています。

日光御成道が繋ぐ2つの宿

日光御成道は、本郷通から岩瀬、川口、鳩ヶ谷、大門、岩瀬の宿場を経た幸手分まで12里30町(約48km)にわたる日光街道の脇道です。この街道は、徳川将軍家が、徳川家康の命日である旧暦の4月17日に日光で催される大祭と先祖の霊園に参詣する日光社参のため利用されました。日光社参は元和3年(1617年)から天保14年(1843年)までの間、約170回実施されたといえます。

江戸時代、川口は岩瀬と同じく「荒川の渡し」を担当宿場町として賑わい、宿場町の荷物配達や郵便などの駅運業務を行う問屋場も設けられました。そして日光社参まつり話としては、8代将軍・吉宗と10代将軍・家治が、日光社参の折りに川口の鐘辻(しゃくじょう)で昼食をとるために小休した、との記録があります。このほか、江戸時代後期の名所旧跡ガイド「遊歴雑記」には、宿場西側の裏町筋「釜屋」と呼ばれる数十軒の鍾物屋があったと書かれており、川口が産業の町として栄えていたことが窺えます。

一方、鳩ヶ谷は宿場の本陣がある中町を中心に、穀物をはじめ肥料や藍染めの材料として使われる藁(わら)や、高、雑貨・乾物などといった店が連なっており、商業の町として知られていました。江戸時代の中頃に始まったといわれる「三八市(さんばちひ)」には、周辺から多くの人々が集まったと伝えられています。その後鳩ヶ谷は、周辺地域の物資集積地として発展し、商業地としての名を馳せました。

川口と鳩ヶ谷は日光御成道の宿場として共に栄え、また安行植木や和傘などの伝統産業の拠点として重要な役割を担っていたため、昔から商業・文化の交流の盛んでした。平成23年10月(2011年)に川口市としてひとつになった両地域は、これまでに深い関係を生み出してきています。



商店街

川口市は、鍾物街を中心とした産業都市として発展を遂げましたが、工場が閉鎖したりが相次ぎ、跡地には大型店舗が進出。スーパーなどに生まれ変わり、週末などにも賑わっています。市内の商店街は60余。それぞれ個性を発揮した商店街づくりに進んでおり、県下第2位の売り上げを記録しています。その努力が実を結び、埼玉県で実施する県おひねり推進に認定されている商店街も多くあります。「黒おひねり」は、商店街主催の事業を継続する「元気の商店街」が条件です。元気の商店街は市内にいくつもあり、西川口駅周辺では地域と一緒に通りを花で飾っています。川口駅西口界隈では、七夕まつりを伝統行事にするほか、商店街所有のギャラリーを設けるなどの取り組みが行われています。また鳩ヶ谷地域では、ファミリーなど住民参加型のイベントが開催されています。

このほかにも、冬季にイルミネーションを飾って盛り上がる商店街も増えており、来客同士のコミュニケーションが生まれる楽しいイベントとして定着しています。

それぞれの商店街は、大型店舗にない手ぬぐいを生かし、消費者をワクワクさせる魅力ある商店街をめざしています。

老舗が多い商店街の七夕まつりは、7月の伝統行事です

イベントで商店街と地域住民の一体感が高まっています

歳時記

1月 初詣 (市内の寺院や神社) 武州川口七福神めぐり 新春交際会・市内の町会・自治会 各種団体がそろう町会を祝う(リリア)

2月 節分…豆まき (グリーンセンターをはじめ、市内の寺院や神社) 初午…鍾物工場などで稲荷様まつり (市内各工場) 花の文化展 (リリア・グリーンセンター)

3月 初午太鼓コンクール (リリア) 春の植木大セリ市 桜まつり(文化放送)送迎所ほか市内各所

4月 春の安行花植木まつり・一輪まつり (川口緑化センター、ふるさとのかほま) 江戸袋の獅子舞(江戸袋の森)

5月 スプリングフェア (グリーンセンター) みどりの地球音in安行 (安行スポーツセンター) 芝川緑のぼり祭り (さくら橋通り) 安行原の蛇道り(安行原) 春の園芸フェスタ (キュボラ・広場)

6月 安行藤八の獅子舞 (安行藤八)

7月 七夕まつり (ふじの市商店街) 夏祭り (鳩ヶ谷氷川神社) 国際Dシネマ映画祭 (SKIPシティ)

8月 たたら祭り

9月 領家の囃子と神楽 (領家稲荷神社、三十番神社) ツーデーマーチ (戸塚中台公園ほか)

10月 グリーンフェスティバル (グリーンセンター) 秋の安行花植木まつり (川口緑化センターほか) 江戸袋の獅子舞 (江戸袋氷川神社) 川口市産品フェア (SKIPシティ)

11月 緑と大地の豊年まつり (植物取引センター・川口緑化センター) 荒川ふれあいまつり (浮間ゴルフ場)

12月 川口マラソン大会 (青木町公園総合運動場と周辺) おかめ市 (川口神社) おかめ市 (飯塚氷川神社) おかめ市 (鳩ヶ谷氷川神社) 除夜の鐘 (市内の寺院や神社)

*各種行事・催事は都合により予定が変更となる場合があります。